

2007 年度 小委員会活動成果報告

(2008 年 1 月 18 日作成)

小委員会名	空間研究小委員会	主 査 名：大佛 俊泰 就任年月：2006 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築計画委員会	委員長名：布野 修司 主 査 名：
設 置 期 間	2006 年 4 月 ~ 2008 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 建築・都市空間に関する研究にあたって、様々な調査方法や分析方法の有効性や可能性について、広く他研究分野と比較を行いながら検討する。さらに、各種の空間やそれらに関連する事象を取り上げて、その意味について議論することを目的に、幅広い分野から講師を招き、研究会やシンポジウムを行う。 ・ 蓄積された活動や議論の成果を出版物として刊行して、学会員に広く公表する。 	
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：有(2006年度)、無(2007年度)	
	主査：大佛俊泰(東京工業大学) 幹事：郷田桃代(東京電機大学) 橋本雅好(椋山女学園大学) 委員：金子友美(昭和女子大学) 北川啓介(名古屋工業大学) 佐野友紀(早稲田大学) 積田洋(東京電機大学) 橋本都子(千葉工業大学) 日色真帆(愛知淑徳大学) 樋村恭一(大妻女子大学) 松本直司(名古屋工業大学) 飯田匡(大阪大学) 木川剛志(福井工業大学) 瀧澤重志(京都大学)	
設置 WG (WG 名：目的)	出版 WG： 空間研究小委員会の活動を通して、蓄積された活動や議論の成果を出版物として刊行して、学会員に広く公表する。 シンポジウム WG： 建築・都市空間に関する研究にあたって、様々な調査方法や分析方法の有効性や可能性について、広く他研究分野と比較を行いながら検討する。さらに、各種の空間やそれらに関連する事象を取り上げて、その意味について議論することを目的に、幅広い分野から講師を招き、研究会やシンポジウムを行う。	
2007 年度予算	249,000 円	ホームページ公開の有無：無し 委員会 HP アドレス：

項 目	自己評価
委員会開催数	7 回(年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	空間研究小委員会および出版 WG における活動の成果を公表するために、以下の出版物の企画を行った。 ・「空間学事典」「空間デザイン事典」につづく3部作として「空間論事典」を近々に刊行すべく、企画内容について、キーワードや用語を収集することを中心に検討した。 ・「空間体験：1998年刊行」について、刊行後10年をめぐりに全面改定を行うことについて、内容を検討した。
講習会	なし 参加者数 名

<p>催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)</p>	<p>様々な分野から講師を招き、建築・都市空間に関する研究における方法論の可能性を探ること、また、各種の空間の意味を議論することを目的として、計3回の研究会(シンポジウム)を企画し、開催した。</p> <p>1. 2007年7月28日・第63回研究会(京都にて開催) 参加者数23名 建築空間分析におけるデータマイニングの可能性 (資料名) 建築空間分析におけるデータマイニングの可能性</p> <p>2. 2007年9月27日・第64回研究会 参加者数20名 スペースシンタックス 空間の繋がりからみた建築・都市 (資料名) スペースシンタックス 空間の繋がりからみた建築・都市</p> <p>3. 2007年10月29日・第65回研究会 参加者数94名 美術館という空間の可能性 (資料名) 美術館という空間の可能性</p> <p>以上のほか、2007年6月18日、2008年1月18日にミニ研究会を実施し、空間研究分野の若手研究者による研究発表と討論の場を設けて意見交換を行った。</p>
<p>大会研究集会</p>	<p>なし 参加者数 名</p>
<p>対外的意見表明・パブリックコメント等</p>	<p>なし</p>
<p>目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)</p>	<p>1. 建築・都市空間に関する研究における方法論の可能性を探ること、また、各種の空間の意味を議論することを目的として、小委員会(計7回)を開催するとともに、委員会外部の研究者や建築家を招いて、3回の研究会と2回のミニ研究会を開催した。</p> <p>2. 上記の活動の成果を講評するために、2件の出版物の企画を行った。</p>
<p>委員会活動の問題点・課題</p>	<p>1. 設置目的は十分に達成されていると考えるが、今後の建築計画研究の新しい方向を切り開くような新しい調査・分析方法の開拓が今後の課題である。</p>

* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。